

企業名： クレディセゾン

レポート名：INTEGRATED REPORT 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

クレディセゾンは、ファイナンスカンパニーから総合生活サービスグループへの転換を目指している。その理由として、少子高齢化や女性活躍などの社会構造の変化、また環境やジェンダーに対する意識の変化により、消費者の価値観が多様なものになりつつあることが挙げられる。このように変化していく生活の中で新たに生まれた課題や困りごとを、今まで金融サービスで培ってきた事業基盤、顧客基盤を活かして解決していき、企業が経営をするうえで直接的または間接的に影響を受ける利害関係者であるステークホルダーとともに持続可能な社会の実現に貢献していくことを目指している。

また、クレディセゾンはペイメント事業、リース事業、ファイナンス事業、不動産関係事業、エンタテインメント事業の5つの事業に分けて運営していく。これは、クレディセゾンが変化し続けていく社会に臨機応変に対応できており、また転換後の姿も具体的に構想できていると捉えられるため、理解できる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

ペイメント事業において、クレジットカードに加えてプリペイドカードやスマートフォン決済など信販会社として長年築き上げた実績があり、信頼性のあるサービスを提供している。

リース事業においては環境商材をはじめとした成長分野にも挑戦している点が競争優位性として認められている。

またクレディセゾンは顧客の行動データを活用してよりターゲットに合ったサービスを提供する取り組みを行っている。

これらの点においては競争優位性を認めることができる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

実際に総合生活サービスグループへの転換を目指し始めた時から実績が向上していることから持続性があることが窺える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

クレディセゾンにおいて人的資本の価値向上を達成するには、まず従業員全員のスキルと知識が向上することが大切である。グローバル事業も展開している今、さらなるスキルが必要とされている。また、従業員のモチベーションとエンゲージメントを高めるために、働きやすい環境を提供することが企業に求められている。

報告書に書いてある担当役員の声などを見ていると、良い環境で働けていることが分かるので、概ね達成できていると思われる。また人的資本の部分において、従業員のスキル向上を促す取り組みを行なっていることが分かる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

それぞれの分野において、細かく従業員の声が記されていたため、会社の実際の声聞いて良かった。報告書の中身ではなくレイアウトなどで改善余地があるとすれば、数字の羅列が多くまた文字が小さかったためもう少し見やすい報告書になると良いと思った。

参考文献

・

https://corporate.saisoncard.co.jp/ir/integrated_report/pdf/CreditSaisonIntegratedReport2022.pdf (閲覧日 7/28)